脳神経外科スペシャリスト

平 孝臣

Takaomi Taira,
M.D., Ph.D.



機能性脳神経外科を専門とし、手の震え、運動障害、ジストニア、慢性疼痛など、従来の治療では改善が難しかった症状の治療に数多く携わってきました。トップアスリートや音楽家などの診療実績も豊富です。

- 東京女子医科大学 脳神経外科 臨床教授
- 医学博士
- 日本脳神経外科学会 指導医・専門医・評議員
- Best Doctors in Japan認定
- Spiegel-Wycis Award 2022受賞
- NHK「クローズアップ現代」出演
- 映画「ジストニア」医療協力



福寿会チャンネル
で配信中

ぜひご覧ください！

ご予約・お問い合わせ

初診・外来窓口

ハートセントラルクリニック

03-5838-0730

ご相談や初診のご予約はこちらへご連絡ください。



医療法人社団福寿会

福寿会東京病院

〒123-0845
東京都足立区西新井本町1-12-12



福寿会東京病院 脳神経外科

ジストニア・
手の震え専門外来

その手の震え、
脳の治療で改善できる
かもしれません。

「年のせいだから仕方がない」
「原因がわからない」
そう言われて、
症状をあきらめていませんか。



— 機能性脳神経外科による専門診療 —

ジストニアとは

ジストニアは、筋肉が意図せず収縮し、体がねじれたり異常な姿勢になったりする神経疾患です。脳の運動をコントロールする神経回路の異常によって起こると考えられています。



- 首が傾いてしまう（痙性斜頸）
- まばたきが止まらない（眼瞼けいれん）
- 文字が書きにくくなる
- 楽器の演奏ができなくなる
- 体が勝手に動いてしまう

ドキュメンタリー映画「ジストニア」
ジストニア患者と向き合う平医師が出演



このような症状はありませんか

- 首が上や下、左や右に傾く
- 首がねじれる
- 足がねじれる
- 身体が歪む
- まぶたが勝手に閉じようとする
- 口が開いたままで閉じられない、閉じたままで開けられない
- 唇が突き出る、顎が左右や前にずれる
- 舌がくねくね動く、口の外に出る
- 声が出ない、出しにくい
- 鉛筆や箸が持てない、持ちにくい
- 字が書けない、書きにくい
- ピアノ・ギターなど特定の楽器が弾けない、弾きにくい

手の震え（振戦）について

手の震えは、日常生活に大きな影響を与える症状の一つです。原因は本態性振戦、パーキンソン病、ジストニア、脳の神経回路の異常などがあります。震えの原因によって治療法は異なるため、まずは正確な診断が重要です。

機能性脳神経外科による治療

薬物治療
症状の原因に応じたお薬を使用し、症状の軽減を目指します。

ボツリヌス療法
ボツリヌス毒素を注射することで、過剰に収縮する筋肉を和らげます。

脳深部刺激療法（DBS）
脳の特定の部位に電極を留置し、電気刺激で症状の改善を図ります。

定位脳手術
症状の原因となる脳の部位を精密に治療し、症状の改善を目指します。

患者さんの症状や原因に合わせて、最適な治療方法を検討します。治療の目的は、症状を軽減し、日常生活の質を高めることです。

治療前後で渦巻きや直線をなぞるテスト

